

湯河原営農経済センター 令和5年8月

TEL 62-6149



西湘きんごろう

○営業時間の変更について

令和5年7月31日（月） 15時まで営業

令和5年8月31日（木） 15時まで営業

10月より土曜日の営業時間が8時40分から12時までとなります。

○湯河原営農経済センター展示即売会について

9月2日（土）9時～13時開催いたします。

——【温州みかん】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょ。——

病害虫防除

7月下旬～8月中旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤600倍 166g/水100㍺
収穫30日前 4回

○カイガラムシ類
チャノキイロアザミウマ

コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100㍺ 収穫前日 3回

○ミカンハダニ

メビウスフロアブル（劇）3000倍 33ml/水100㍺ 収穫7日前 2回

ミカンサビダニ

アザミウマ類

8月下旬～9月上旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍺
収穫30日前 4回

○ミカンハダニ

ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍺ 収穫前日 1回

ミカンサビダニ

又は
ダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100㍺ 収穫前日 1回

○チャノキイロアザミウマ

エルサン乳剤（劇） 1,000倍 100ml/水100㍺ 収穫14日前 2回

ヤノネカイガラムシ

又は スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍺ 収穫前日 3回

※チャノキイロアザミウマ多発園ではスタークル顆粒水溶剤を散布する。

品質向上対策

①熟期促進を目的に、フィガロン乳剤の散布

満開後90日と110日の2回 3,000倍 300㍺/10a

②被覆資材の利用 敷設は8月中、取り外しは収穫前に行う

着色向上を目的の場合は、樹冠下に敷く（部分被覆）

着色向上と増糖・除草を目的の場合には、園内全体に敷く（全面被覆）

【中晩柑】

はるみ・不知火は、初秋の乾燥で細根が枯死しやすいため、水分ストレスを受けやすく、小玉、高酸果の原因になります。敷わらマルチ、ナギナタガヤの草生栽培により梅雨明け後から秋にかけての土壌の過乾燥を防ぎましょう。著しく乾燥が続く場合は灌水も検討しましょう。また、1果当たり100葉を基準に早めの摘果をしましょう。

特にはるみは着果量が多いと樹勢の低下や枯死の原因になりますので、樹冠上部1/3から1/4は必ず全摘果をしましょう。

— 【レモン】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。 —

病害虫防除	8月下旬～9月上旬
<u>○ミカンハダニ</u>	<u>ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍓ 収穫前日 1回</u>
<u>ミカンサビダニ</u>	<u>ダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100㍓ 収穫前日 1回</u>
<u>チャノホコリダニ</u>	
<u>○かいよう病・黒点病</u>	<u>コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓</u> (薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する)
○ミカンハモグリガ	エクシレルSE 5,000倍 20ml/水100㍓ 収穫前日 3回
アザミウマ類	
※毎年黒点病が多い園ではストロビードライフフロアブル3,000倍（収穫14日前）を散布しましょう。	

— 【う め】 —

夏季剪定	8月中旬～9月中旬まで
縮間伐を行い周囲から光が当たるようにするとともに、立ち枝(覆う枝)の間引きで樹の内部まで光が入るようにして翌年の花芽の充実を図りましょう。8月中に終わると効果が高いです。 (<u>小梅や樹勢が弱っている樹は、夏季剪定は控えめにしましょう。</u>)	

— 【キウイフルーツ】 —

夏季剪定終了後に発生した夏枝や、剪定した部分から出る新梢が巻きついた部分を取り除きます。結果枝の葉を充実させ、果実へ養分が行きやすくするために、新梢を伸ばさないようにしましょう。
※カメムシ発生時は、スタークル顆粒水溶剤2,000倍 50g/水100㍓を散布（収穫前日 3回）

乾燥防止対策

初期肥大の時期には土壌を乾燥させないようにしましょう（敷わら・灌水）

— 【か き】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。 —

病害虫防除	
8月上旬	
<u>○カキノハタムシガ</u>	<u>ダントツ水溶剤 4,000倍 25g/水100㍓ 収穫7日前 3回</u>
<u>カメムシ類</u>	<u>又は</u>
<u>コナカイガラムシ類</u>	<u>スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回</u>
<u>○うどんこ病</u>	<u>トップジンM水和剤 1,500倍 66g/水100㍓ 収穫前日 6回</u>
8月下旬	
○うどんこ病多発園	トリフミン水和剤 3,000倍 33g/水100㍓ 収穫前日 3回
灌水	

肥大促進・充実のため、梅雨明け後に乾燥が続く場合は、1週間に1回程度灌水をしましょう。

— 【く り】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。 —

病害虫防除

8月上旬

○実炭疽病 ベンレート水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 裂果前但し収穫14日前 4回

○モモノゴマダラノメイガ フェニックスフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 収穫前日 2回

干ばつ対策

土壌の乾燥を防ぐために敷きわらをしましょう。(※梅雨明け前後に)

— 【お 茶】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。 —

土づくり

8月中旬までに苦土石灰120kgと有機物をすきこみ30cmくらいの深さに行いましょう。

病害虫防除

8月上旬～中旬

○チャノミドリヒメヨコバイ ロディー乳剤(劇) 1,000倍 100ml/水100ℓ 摘採7日前 1回

チャノキイロアザミウマ

チャノホソガ

チャハマキ

チャノココクモンハマキ

○炭疽病

オンリーワンフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 摘採7日前 2回

8月中下旬

○カンザワハダニ

ミルベノック乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 摘採7日前 1回

整枝

一番茶以降、更新作業を行ってない園では、上旬をめどに整枝を行いましょう。

ただし、樹勢が極端に悪い場合は、整枝は行わないようにしましょう。

<注意>

「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。(前日は24時間前)

「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。

△△店舗により農薬の在庫状況が異なりますので、記載の農薬を購入される場合は購入先の店舗に事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。△△

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。